

## 短期大学における地域課題解決活動とその教育効果

### Problem-solution Activities of Regional Community in Junior College and its Educational Effect

沢田 史子\*

#### 要旨

短期大学の学生が、石川県加賀市山代温泉の地域課題解決に向けて地域団体と連携して、ご当地ゆるキャラの認知度向上に取り組み、それを活用した地域資源マップを作成した。これらの活動が学生に与えた効果について、社会人基礎力を中心にアンケート調査やグループインタビュー、学生の行動の変化から考察した。結果として、社会人基礎力の全ての要素について向上し、さらに当初予定していなかった活動を学生が自主的に行うなど、高い教育効果が認められた。

**キーワード：** 地域課題(Regional community problems)／地域貢献(Regional contribution)／  
社会人基礎力(Fundamental competencies for working persons)

#### 1. はじめに

近年、地域との連携を重視する大学および短期大学が急増している。文部科学省の「平成26年度開かれた大学づくりに関する調査研究報告書」[1]によると、2013年度において学生が地域貢献活動を実施している大学は83.6%で、短期大学では73.7%あった。学生による活動には、ボランティアや地域の祭りに参加するだけでなく、地域と連携し課題解決のアイデアを考え、プロジェクトを遂行するという貢献もある。豊田ら[2]は「その際、課題解決の成果を出すだけでなく、地域貢献のプロセスに教育的意義を生み出すことができるかが、教育機関でもある大学としての重要なチャレンジである。」と指摘している。

石川県加賀市山代温泉の訪問客数は、1989年は180万人を超えていたが、2013年には81万人と大幅に減少している。山代温泉観光協会によると、若年層の訪問者を増やすことが課題の一つとなっており、学生による解決策の提案について地域からの要望があった。

本研究では、短期大学の学生が地域課題解決に

向けて地域の5団体と連携し、ゆるキャラを活用した地域資源マップを作成した事例を報告する。そして、これらの地域課題解決活動による教育効果について、アンケート調査・グループインタビュー・学生の行動の変化を基に考察する。

#### 2. 地域課題解決活動

大学コンソーシアム石川の事業の1つに「地域課題研究ゼミナール支援事業」がある。地域の課題などについて、その解決方を提言するゼミナールを大学コンソーシアム石川が選定し、選定されたゼミが当該地域などとの意見交換や調査などを通じ、課題解決の提言をまとめるものである。北陸学院大学短期大学部コミュニティ文化学科の2年生9名が、本事業の採択を受け、ゼミナール活動の一環としてプロジェクトを実施した事例を報告する。活動内容は主に以下の2つに分けられる。いずれも、山代温泉観光協会など5つの地域連携団体の方々と意見交換を重ね、地域のイベントにスタッフとして参加するなど交流を深めながら活動を行った。

##### 2.1 すばクロくんの認知度向上の取り組み

山代温泉のゆるキャラであるすばクロくんに観光資源として活用するために、以下の取り組みを行った。

\* SAWADA, Ayako

北陸学院大学短期大学部 コミュニティ文化学科  
地域と観光

若年層向けコピーを記載したすばクロくん名刺を作成した。コピーはアイデアマラソン [3] という発想法により300以上の候補を出し、連携団体の方々や専門家のアドバイスにより、山代温泉とすばクロくんを関連付ける10点を選んだ。金沢市内3か所(4日間)ですばクロくんを出没させ、名刺をポケットティッシュの外装フィルムに入れたものを1000個配った。さらに、すばクロくんのぬいぐるみを使って、すばクロくんプロフィール編、湯めぐり編、恋愛編の動画を作成し、動画共有サイトYouTubeを利用して発信した。すばクロくん関連の情報を掲載するNAVERまとめを作成した。名刺にはNAVERまとめのサイトのQRコードを貼り付け、ネットとリアルの両面から認知度向上を目指した。

## 2.2 地域資源マップの作成

地域資源マップの作成にあたり、ターゲットを金沢市やその近郊在住の女子大学生とした。そして、自家用車で友達や恋人とショッピングやアクティビティを楽しみながら山代温泉を訪問できるよう、金沢～山代温泉間の若年層向けの地域資源調査を3日間、毎回3グループに分かれて行った。山代温泉では、若年層向けの地域資源調査に加え、撮影スポットと隠れすばクロくんの設置場所・方法について調査を行った。調査の様子を図1に示す。また、学外での調査研究活動を表1に示す。著者はゼミ指導教員として、全ての活動に同行した。

表1 学外における調査研究活動

活動内容	実施日
山代温泉資源調査	4月20日、12月26日
金沢～山代温泉間資源調査	8月21日、8月22日、10月11日
山代温泉観光協会との打ち合わせ	6月12日、1月9日
連携5団体との意見交換会	6月27日、10月31日
すばクロくん出沒・名刺配布	合同学園祭 9月21日 金沢大学 10月7日 (北陸学院大学 10月24、25日)
やましろ端午の節句まつり(地域イベント参加)	5月4日
湯の曲輪浪漫(地域イベント参加)	衣装合わせ 9月11日 打ち合わせ 10月2日 イベント当日 10月12日
地域連携事業成果報告会	2月21日

活動期間：2014年4月～2015年2月



図1 山代温泉での調査の様子



図2 地域資源マップ表面(山代温泉)



図3 山代温泉観光協会HPの「すばクロくんを探せ!!」ページ

山代温泉内の21店舗に協力いただき学生が作成した缶バッチ・ステッカー・石絵の隠れすばクロくんを設置し、すばクロくん探しのヒントや女子大学生推奨メニュー、レトロな街並みを中心とした撮影スポットを掲載したマップを作成した。完成したマップ表面を図2に示す。このマップを頼りに山代温泉内の店舗を巡り、隠れたすばクロくんを探し5つ見つけて撮影した写真を送ると、特別画像がダウンロードできる仕組みを構築した。本システムは山代温泉観光協会が作成し、2015年

9月30日まで稼働した。特別画像のダウンロード者の中から、季節ごとに抽選で5名にすばクロくんぬいぐるみキーホルダーをプレゼントする企画も実施した。山代温泉観光協会のHPの「すばクロくんを探せ！」ページを図3に示す。隠れすばクロくんの企画者として、「北陸学院大学短期大学部 コミュニティ文化学科 沢田ゼミの皆さん」と掲載されている。本システムへはマップ上のQRコードと、図3に示したページからアクセス可能とした。さらに、春は花見、梅雨はカエルとレインコードなど季節ごとにダウンロードできる画像のアイデアを学生が提案するなど、山代温泉観光協会と連携を取りながら、地域の商店に協力いただき、隠れすばクロくん探しを実現した。

また、裏面には金沢～山代温泉間の女子大学生向けの「オシャレでカワイイ」をコンセプトとした店舗を掲載することとした。3グループで調査した全ての店舗について、ターゲットとコンセプトに合致しているか、ゼミ学生全員で検討した。その結果、レストランなどのグルメ5軒、カフェ3軒、雑貨4軒、レジャー6軒、スイーツなどのテイクアウト8軒の合計26軒を選び、これらの情報を掲載した。マップ裏面を図4に示す。

これらの研究成果を、コンソーシアム石川が主催した大学・地域連携アクティブフォーラム（地域連携事業成果報告会）で学生が報告した。その様子を図5に示す。本報告会は、2015年2月21日に金沢市内のホテルで実施され、地域課題研究ゼミナール支援事業、地域貢献型学生プロジェクト推進事業、大学・地域連携まちづくり支援プロジェクト推進事業で平成26年度に採択された27件

の取り組みが報告された。

### 3. 教育効果

本研究では、地域課題解決活動が学生にどのような効果を与えるかを評価するために、経済産業省が提唱している「社会人基礎力」の3つの能力/12の能力要素に注目した。

#### 3.1 評価方法

社会人基礎力の12の要素について、本活動に参加した学生9名に対し、活動の前と後にアンケート調査を行った。経済産業省が作成している「学生のレベル別行動事例」[4]を配布し、それを参考に「社会人基礎力レベル評価基準表」[4]を用いて学生がレベル1～3で自己評価を行った。また、3つの能力別の具体的な行動事実を書き込む用紙を準備し、活動全体を通して、学生が自分自身の行動を振り返り、自身の成長について、具体的に記載した。さらに、活動後にグループインタビューを行った。

#### 3.2 結果

アンケート調査結果を表2に示す。表の値は9人の平均値である。12の能力要素の平均値について、活動前と活動後で比較した結果を図6に示す。レベル1は「発揮できなかった」、レベル2は「通常の状態では発揮できた」、レベル3は「通常の状態でも効果的に発揮できた」「困難な状況でも発揮できた」を示している。12の全ての要素について活動前に比べ、活動後が上昇している。「前に踏み出す力」は0.67ポイント、「考え抜く力」は0.78ポイント、「チームで働く力」は0.41ポイント上昇している。



図4 地域資源マップ裏面（金沢～山代温泉）



図5 地域連携事業成果報告会の様子

表2 アンケート調査結果

3つの能力	12の能力要素	活動前	活動後	差	活動前平均	活動後平均	3つの能力の差
前に踏み出す力	主体性	2.00	2.44	0.44	1.70	2.37	0.67
	働きかけ力	1.56	2.11	0.56			
	実行力	1.56	2.56	1.00			
考え抜く力	課題発見力	1.33	2.22	0.89	1.30	2.07	0.78
	計画力	1.11	1.89	0.78			
	創造力	1.44	2.11	0.67			
チームで働く力	発信力	1.22	1.89	0.67	1.98	2.39	0.41
	傾聴力	2.44	2.56	0.11			
	柔軟性	2.22	2.56	0.33			
	状況把握力	2.00	2.67	0.67			
	規律性	2.33	2.56	0.22			
	ストレスコントロール力	1.67	2.11	0.44			
	平均	1.74	2.31	0.56			

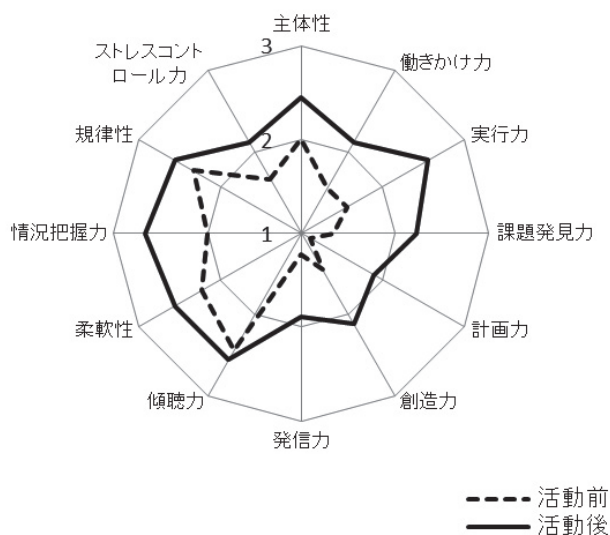


図6 12の能力要素の活動前後比較

12要素の中で最も上昇したものは「実行力」である。活動前は1.56で、活動後は2.56となり1ポイント上昇している。次に上昇幅が大きかったものは、「課題発見力」である。活動前は1.33、活動後は2.22で0.89ポイント上昇している。3番目は「計画力」で、活動前が1.11、活動後1.89で0.78ポイント上昇している。活動前の12項目の平均値は1.74である。これら3項目はその値を下回っており、参加学生にとって、不足している力であったと考えられる。

アンケート調査に記載された具体的行動事実とグループインタビューでの学生の発言を以下に整理する。

#### (1) 前に踏み出す力

- ・名刺やマップ作りで、期限までに仕上げるために、仕事を分担し完成させた。
- ・ゼミの中で自分のやるべきことは何かを見極め、リーダーのサポートを行い、時には全員の作業の割り振りを決めた。

#### (2) 考え抜く力

- ・第1回の意見交換会で、地域の方々とゼミ生の意見の違いが生じた。次は納得してもらえるように、ゼミ内で何度もディスカッションを行った。
- ・地域とゼミ、ゼミ生と自分で、考え方や価値観の違いがある中で、課題に向き合い、考えることができた。

- ・すばくろくんを有名にするために、一人ひとりが真剣に考えた。

#### (3) チームで働く力

- ・山代温泉でのイベントの手伝いや地域の方々の意見交換会を通じて、社会のルールや約束を守る大切さを学んだ。
- ・自分の意見を伝えるだけでなく、相手の価値観や考えを理解し、受け入れられるようになった。

#### 4. 考察

学生達は活動を通じて、「課題発見力」「創造力」「柔軟性」などが地域の団体と連携してプロ

プロジェクトを遂行するために重要であることに気づいていった。例えば、第1回目の意見交換会では、学生の提案に対し、地域の方々から否定的なものも含め様々な意見が出された。その後のゼミ内でのディスカッションは、地域の方々の意見を取り入れ、さらに良い提案ができるようにと、学生の真剣さが増していった。

すばクロくんの認知度向上の取り組みでは、当初予定していなかったすばクロくんのプロフィールを山代温泉観光協会へ提案したり、NAVERまとめのサイトを作成した。さらに、本学の大学祭では、すばクロくんの着ぐるみを出展させティッシュを配布するだけの予定であったが、ゼミとして模擬店を出店し、すばクロくんグッズや山代温泉の名物を販売したいという声が学生から上がった。地域の方々からのアドバイスで、山代温泉の名物ではなく、すばクロくんのおにぎりを学生が作成・販売することとなった。すばクロくんのおにぎりの作成は、かわいい仕上がりにするための素材の選択や、効率良く生産するための調理法の選択など想像以上に困難であった。しかし、学生が自宅で試作し、それをゼミに持参し改良点を話し合うということが主体的に繰り返され完成した。地域の課題が「他人事」から「自分事」へと変化していき、学生の主体性や実行力を高めることにつながっていった。

学生達は山代温泉の現状を調査し、若年層の訪問が少ないこと、訪問者の回遊性が低いという課題を発見し、その解決のためのアイデアを地域の連携団体へ提案していった。アンケート調査結果の「考え抜く力」が大きく上昇しているが、本事例は地域と連携したことにより、地域からの期待が学生のモチベーションの向上に寄与し活動の質を高め、「考え抜く力」を向上させたと考えられる。

「チームで働く力」は0.41ポイントの向上で、他の2つに比べると低い結果となった。しかし、活動後は2.39となっており、3つの能力の中では最も高い結果となった。学生のコメントにも見られるように、「チームで働く力」は向上しており、活動前の平均値が1.98と高いことが3つの能力の差が小さい要因であると考えられる。活動後の値では、6要素中4要素について天井効果が表れて

いる。

今後の課題として、予算の確保と継続性の問題が挙げられる。学内でのPBLとは異なり、地域へ出掛けるため、ある程度の予算が必要である。本事例では、12回延べ13日山代温泉（大学から往復100km）へ出掛けている。コンソーシアム石川の事業が採択され、予算を確保することができた。このような予算がない場合は、活動に参加する学生の負担となる。ゼミの一環として地域課題解決活動を行う場合は、ゼミの特性により一部の学生だけに負担させることにつながる。地域課題解決活動を大学として推進するためには、学科単位での全学生の参加、もしくは大学独自の予算の確保などの検討が必要であろう。本事例は、短期大学の2年生が取り組んだものである。学生による地域課題解決活動は、地域との連携が必須である。さらに、その活動を継続することにより、より良い活動へとつながり、良い成果を生み出すことができる。大学の3、4年次持ち上がりのゼミとは異なり、活動期間が短い短期大学でどのように次年度へ継続していくかが課題である。

## 5. おわりに

本研究では、短期大学の学生9名がゼミの一環として、地域課題解決に向けて地域団体と連携し、ご当地ゆるキャラの認知度向上の取り組みと、それを活用した地域資源マップを作成した事例を報告した。そして、これらの活動が学生に与えた効果について考察した。

アンケート調査やグループインタビュー、学生の行動の変化から高い教育効果が認められたが、さらに、地域を訪問した回数など個人のプロジェクトへの貢献度と教育効果との関係性や、教員の関与の度合いと教育効果との関係性を調べることにより、より効果的な活動方法について示唆を得ることができるであろう。また、学修成果のアセスメントについて、国内外で盛んに研究されており、サービスラーニング教育のアセスメントツールも開発されている [5]。今後は、このようなツールを参考にしながら、地域課題解決活動に対する教育効果の評価法について検討していきたい。

〈参考文献〉

- [1] 文部科学省：平成26年度開かれた大学づくりに関する調査研究報告書  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/chousa/\\_icsFiles/afieldfile/2015/07/15/1359627\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/chousa/_icsFiles/afieldfile/2015/07/15/1359627_01.pdf) 2015年9月21日アクセス
- [2] 豊田光世, 内平隆之, 井関崇博, 中畠一憲：大学の地域貢献活動の教育効果に関する考察－Enactusの事例をもとに－, 兵庫県立大学環境人間学部研究報告, Vol.16, pp.59-66 (2014)
- [3] 樋口健夫：1日15分 アイデアマラソン発想法, 東洋経済新報社(1995)
- [4] 経済産業省：今日から始める 社会人基礎力の育成と評価  
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/h19reference.htm> 2015年9月21日アクセス
- [5] 野坂美穂, 矢尾坂俊平：学修成果アセスメント活動と教育プログラムのアセスメント－IR活動の試行を通じた間接アセスメントの可能性について－, 淑徳大学高等教育研究開発センター年報, Vol. 2, pp.31-47 (2015)